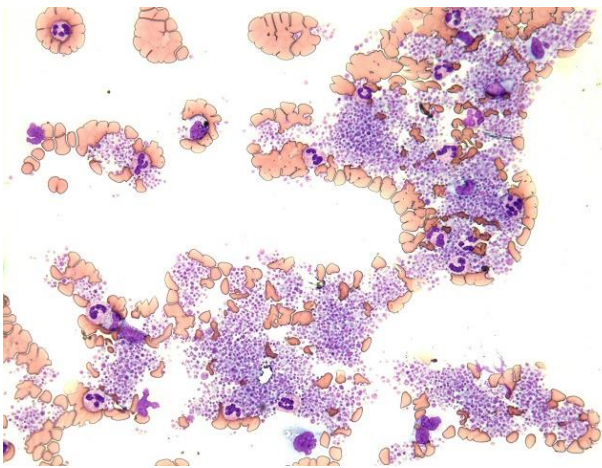


EDTA による血小板凝集が疑われる場合の検査依頼について

EDTA 依存性偽血小板凝集とは。

採血手技には問題ないにも関わらず血小板が凝集し、偽低値となる場合は、EDTA 依存性偽性血小板減少症が疑われ、0.03～0.1%の出現頻度で起こるといわれています。EDTA の存在下、免疫グロブリンの影響で血小板と血小板が結合することにより起こるといわれていますが機序は不明です。肝疾患、抗生物質投与後に多いとされています。昨日まで何もなかった患者さんに突然発症することもしばしばです。



《抗凝固剤 EDTA を原因とする血小板凝集》

- 出血症状が無く、臨床症状と合致せずに血小板が急激に低下した場合
- 初診時の検査で、出血もしていないのに血小板が極端に低値な場合



まずは、臨床検査部へご相談ください。
また、EDTA 血小板凝集確認試験を実施しています（平日 9:00～16:00）。オーダーリングにて「血算」と同時に「EDTA 血小板凝集確認」をご依頼ください。
採血管は、⑧K 薄紫 2 と⑦NaF 管にて採血後、速やかにご提出ください。

採血情報		
採取開始日	2013/09/04	終了日
採取時間	00:00	日付未定(N)
連続入力 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水		
木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 <input type="checkbox"/> 日		
検索		
*1. セット *2. 診察前 *3. 一般 *4. 血液 *5. 生化 *6. 内分泌/腫瘍 *7. 感染症 *8. 免疫 *9. 輸血 *10. 一般細菌 *11. 嫌気性菌 *12. 抗		
血液形態・機能検査	出血・凝固検査	骨髄検査
青字: 当日報告	緑字: 時間制限あり	黒字: 外部委託項目
末梢血液一般検査(血算)	APTT	アンチトロンビンⅢ(ATⅢ)
血液像(自動法)	プロトロンビン時間(PT)	トロンビン・ATⅢ複合体(TAT)
	フィブリノーゲン(Fbg)	プラスミンα2PI複合体(PP)
↓↓★ 精査を希望の場合 ★	ヘパラスチンテスト(HPT)	FDP
血液像(マニュアル法)		D-ダイマー
治験セット血算+マニュアル血液像	可溶性フィブリン(SF)	
網赤血球数(RET)		
赤血球沈降速度(ESR)		↓ 検体受付は平日(9:00～16:00)です EDTA血小板凝集確認